

令和2年度（2020年度）事業報告

I. 事業の経過およびその成果

1. 社員総会

第73回定時社員総会を2020年5月25日（月）にTKP 御茶ノ水カンファレンスセンターで開催。社員総数204名のうち188名（電磁的方法による議決権行使社員数97名、出席者5名、有効委任状86名）が出席して会が成立。2019年度決算（貸借対照表、正味財産増減計算書、財産目録）承認、理事・監事選任に関して決議した。また、令和1（2019）年度事業報告、令和1（2019）年度名誉会員推戴について報告が行われた。

2. 役員会等

1) 理事会

令和2年度は、第649回（5/8）、第650回（5/25）、第651回（7/13）、第652回（10/26）、第653回（2/3）の計5回開催するとともに、メール審議によるみなし理事会を1回行った。

①代表理事及び業務執行理事の選任

第73回定時社員総会（5/25）後の第650回理事会で、代表理事・会長として、小林喜光氏、代表理事・筆頭副会長として加藤昌子氏を選出した。尚、代表理事・常務理事の澤本光男氏は留任である。また、業務執行理事・副会長としては、留任である酒井一成氏、中村 聡氏に加え、新たに三浦雅博氏、織田佳明氏、渡利広司氏を選出した。

②公益法人として内閣府へ定期提出書類の提出

令和1年度事業報告、令和1年度決算に係る資料について、第649回理事会で承認し、第73回定時社員総会でそれぞれ報告・決議後、5月末に内閣府へ提出した。また、令和2年度理事について、第648回理事会で承認、第73回定時社員総会で決議後、第650回理事会で代表理事、業務執行理事の選任を行って、内閣府へ役員の変更届を提出した。

令和3年度事業計画及び予算について第653回理事会で承認し、2月末に内閣府へ提出した。

③令和3年度（2021年度）事業計画、予算案

2021年度予算案については、第651回理事会において承認された「2021年度予算作成方針」に基づき、部門長、委員長、部会長宛に策定を依頼し、第1次案を提出頂いた。

その後、事務局内で取り纏め、財務担当理事打ち合わせ会（計2回）を経て第653回理事会にて最終承認された。2021年度予算は、会館改修による46,000千円の改善があったが、COVID-19による影響等で会費収益△15,000千円、出版関連収支△14,000千円、事業関連収支△22,000千円、寄附金/補助金等収支8,000千円の減となり、32,158千円の赤字となった。（昨年度予算より62,749千円の改善）

2021年度事業計画については、第653回理事会にて承認された。

④中長期基本戦略、2021年度基本活動方針の承認

中長期基本戦略（2020～2025年度）と基本理念の審議を行い第652回理事会で承認した。中長期基本戦略では情報発信、異分野・国際交流、産官学連携、人材育成・多様化、組織活性化の5項目を強化すべき項目として、外部環境、内部環境を考慮して解決のアプローチを明示した。

更に中長期基本戦略の5項目に関する2021年度基本活動方針を第653回理事会で承認した。

⑤2022・2023年度会長候補者及び2021・2022年度役員候補者

2022・2023 年度会長候補者および 2021・2022 年度理事候補者、監事候補者については、1/13 の役員候補者選考委員会を経て、第 653 回理事会で承認された。2020・2021 年度役員候補者については、5/26 の第 74 回定時社員総会に諮ることになった。また 2022・2023 年度会長候補者については、2021 年 3/19-4/19 の期間において会員による会長最終候補者選出選挙が実施されることとなった。

⑥重要な使用人としての支部長、部会長、事務局長の選任

第 653 回理事会において、2021 年度の支部長として、中野英之氏、和田健彦氏、鈴木隆之氏、馬場嘉信氏、松本卓也氏、菅 誠治氏、中野晴之氏を選任した。また、部会長として、出口 茂氏、後藤雅宏氏、船津公人氏、浅沼浩之氏、吉岡直樹氏を選任した。さらに事務局長として、鈴木慎一氏を選任した。

⑦各賞選考、フェロー選考、化学遺産認定

2020 年度フェロー候補者については、規則に従って選考し、第 652 回理事会で承認した。2020 年度の各賞候補者、化学遺産認定候補、吉野彰研究助成対象候補者については、2020 年度第 1 回みなし理事会で承認した。

⑧名誉会員の推戴

本会の名誉会員として川合 眞紀氏（分子研・所長）を推戴することを第 649 回理事会で承認した。

⑨規程類の制定・改定

事務局就業規則等の規則類の改訂を第 651 回理事会で承認した。長倉三郎賞の設立に伴い、関連規程類の改訂（運営会議規程、表彰規程、財産管理運用規定）および長倉三郎賞事業積立資産規程、積立資産取扱規程、長倉三郎賞選考規則の新設について第 653 回理事会で承認した。

⑩国際交流関係

アジア国際シンポジウム Lectureship Award の受賞候補者 1 名を第 652 回理事会で承認した。第 15 回 PCCP Prize 受賞候補者 3 名を第 653 回理事会で承認した。

⑪化学会館の改修工事

第 648 回理事会決定に基づき化学会館の会館改修工事を行った。工事期間 2020 年 4 月 27 日～11 月 27 日。COVIT-19 による工期の延長があったが、11 月 27 日に竣工、引き渡しとなった。

⑫春季年会関連

第 100 春季年会について、COVID-19 感染拡大に伴い現地開催を中止し、参加費の取扱いについては、講演予稿集発行をもって本年会が成立したとして、払い戻しを行わないこととするむねを第 649 回理事会で承認した。

2) 顧問会

10 月 26 日に 10 名の顧問（歴代会長）出席のもと開催。顧問各位から貴重なご意見を伺った。

3) 相談役会

2020 年度も相談役会は開催しなかったが、このような化学企業トップとの意見交換の場を積極的に活用していく。

4) 支部長・部会長会

2020 年度は、7/13、2/3 の 2 回開催した。

支部・部会に関しては、基本活動方針、会員状況と会員増強取組、CSJ 化学フェスタ、教育・

普及活動（国際化学オリンピックへの生徒派遣、夢・化学-21、化学の日・化学週間）、PACIFICHEM2021、ジャーナル戦略、化学会館の改修工事等についての情報共有と協力の要請を行った。また、COVID-19の影響で各支部、部会ともにイベントが中止、オンライン開催への変更が余儀なくされている。オンラインイベント開催の委託業者情報を共有できないか、との要望があったが、業者の地域性、業者サービスも始まったばかりで担当者によるサービス格差が大きい等の課題があり、現時点での共有は見送りとなった。

3. 運営会議関係

1) 運営会議

2020年度は4/14、6/26、9/28、12/7の計4回開催。主に理事会における審議案件について予備的検討を行うとともに、会の重要事項について審議を行った。また、各委員会委員長、ディビジョン主査の選任を行った。

2) 戦略企画委員会

2020年度は4/14、6/26、9/28、12/7の計4回開催。2020年度に引き続き、今年度についても、毎回原則1件の重要事項に関し、集中的に審議する場とし、以下のテーマについて討議を行った。

① 今年度集中討議議題の検討

2020年度の戦略企画委員会は、原則1会議1テーマに絞り集中討議を行うこととし、議題は以下の課題を議論することとした。

| 日 程 | 議 題 |
|---------------|--|
| 2020年4月14日（火） | 中長期計画の策定、危機管理（パンデミック対応）、化学系学協会との協力に関して |
| 2020年6月26日（金） | 春季年会の在り方、パンデミック下の学会運営 |
| 2020年9月28日（月） | 中長期基本計画の策定 |
| 2020年12月7日（月） | 化学系学協会との協力体制について |

② 春季年会の在り方に関して

年会改革ワーキンググループの活動概要、基本方針、新しい年会に向けた変更点について共有し、以下の項目について検討した。

- ・アカデミックプログラム（AP）の編成（講演時間、A講演・B講演・受賞講演）
- ・APの運営（座長、講演方法、講演申込み）
- ・シンポジウム、併催企画の企画数の調整
- ・招待講演、シンポジウム登壇者の待遇（参加登録、懇親会招待、謝金）
- ・懇親会の統合

詳細部分は継続議論が必要であるが、基本骨格は戦略委員会として承認し、理事会において審議とすることとなった。

③ パンデミック下の学会運営（With Corona, After Corona 対応）

大規模な学術集会である春季年会、CSJ化学フェスタをWEB会議で行う上での運用に関して議論があり、特に参加形態に関しACS等の動向を調査し、化学会として最適な方法を検討する

こととなった。財政面、会館改修後の賃貸事業、WEB 開催に於ける知的財産保護等に関する COVID-19 の影響が議論された。

④中長期基本計画の策定

2019 年度に中長期基本戦略の終了を踏まえ、新たに 2020～2025 年度から約 5 年間の日本化学会の基本方針（ビジョン）の中長期基本戦略の策定の議論を行い、化学会の基本理念ならびに 5 つの基本戦略を策定した。

⑤化学系学協会の協力関係に関して

複数の化学系学協会が自律分散では無く、連携・協力・協働の方向で検討することを、賛同学会と具体的な検討することの議論を行った。共催シンポジウム、費用負担等に関する検討を進める。

3) 広報委員会

広報委員会は日本化学会の情報発信力の強化を進めている。令和 2 年度は日本化学会の活動について、アニュアルレポート 2020 発行、記者会見実施（2 回）、ニュースリリース配布（9 件）、ホームページへの新着情報アップ（76 件）を行った。

また、多くの方に「化学の日」に参加いただくことを目的に、2020 年版「化学の日」缶バッジデザインコンテストを実施し、618 名の応募（内訳：小学生の部 39 点、中学生の部 51 点、高校生の部 284 点、一般の部 244 点）の中から最優秀賞 1 点を缶バッジデザインとして採用した。「化学の日」缶バッジの他にも周期表クリアファイルを作成し、各地で実施される化学普及活動時のノベルティとして配布した。

4) 倫理委員会

今年度は『日本化学会会員行動規範』および『行動の指針』に係わる問題が特になく、倫理委員会は開催しなかった。

5) 論説委員会

論説委員会は日本化学会が専門家集団として、社会に向けてより積極的に発言するため、化学、化学技術関連の時事テーマを随時とりあげ、それに対する見解を機関誌「化学と工業」および化学会ホームページに「論説」として掲載し、会員および一般に発信している。

令和 2 年度には論説委員会を 2 回開催し、執筆を依頼するテーマについて論議し、論説委員およびゲスト論説委員に順次執筆を依頼、掲載した。また、春季年会において「論説フォーラム」で大学の経営・就職革命をテーマに議論する予定。

6) 化学オリンピック支援委員会

化学オリンピック日本委員会の目的を継承し、化学に対する社会的関心を高めるとともに、化学分野の次世代人材の拡充と育成に寄与するために、国際化学オリンピック大会に関する国内および国際的活動を支援する。令和 2 年度は、国際化学オリンピック大会の日本代表候補者に対する訓練支援、日本代表の選抜・訓練に対する支援、国際化学オリンピック大会に対する国際的支援などを行った。

4. 会務部門

1) 会務部門会議

会務部門では、学会運営に係る規程・規則の整備、役員候補者の推薦、会員増強、表彰者の選考に関する業務を遂行することで、会員の増加推進や内部統制の充実に努めた。

事務局就業規則等の規則類の改訂を承認し第 651 回理事会に提案した。長倉三郎賞の設立に伴い、関連規程類の改訂（運営会議規程、表彰規程、財産管理運用規定）および長倉三郎賞事業

積立資産規程、積立資産取扱規程、長倉三郎賞選考規則の新設について承認し理事会へ提出した。

また、年会予稿集 DVD 版の廃止に伴う会員要領の変更を承認、2020 年度日本化学会フェローとして、鎌田正裕氏(東京学芸大学教授)、大倉一郎氏(東京工業大学名誉教授)を選考し、理事会への提案を行った。

2) 会員委員会

今年度は委員会を ZOOM にて 3 回開催した。化学会の会員数は依然として減少が続いており、会員増強のための方策や会員メリットについて、種々議論した。今年は、個人の会員、法人正会員の会員増強を目指し、会員特典について、議論し、要素の抽出など行いフライヤーにまとめた。今後、代表正会員など幅広く広報活動を行っていく予定である。また退会・減口申請会員の慰留については、会長→トップ宛てのレター送付に一定の効果が見られる。

3) 役員候補者選考委員会

1/13 に開催された役員候補者選考委員会において、2021・2022 年度新任理事候補者 14 名と新任監事候補者 2 名を選出し、理事会に答申した。

4) 各賞選考委員会

各賞選考委員会において、令和 2(2020)年度受賞候補者を選出し、理事会に答申し、承認された。表彰式は新型コロナウイルス感染拡大防止の観点から挙行を中止し、表彰楯の送付と会誌への記事の掲載をもって、表彰とした。

【日本化学会賞】 6 件

| | |
|----------------------|-----------------|
| 阿尻 雅文 (東北大 WPI-AIMR) | 大井 貴史 (名大 ITbM) |
| 城戸 淳二 (山形大院有機材料システム) | 城 宜嗣 (兵県大院生命理) |
| 馬場 嘉信 (名大未来社会創造機構) | 渡邊 正義 (横国大先端院) |

【学術賞】 10 件

| | | |
|--------------------|----------------|---------------|
| 朝倉 清高 (北大触媒研) | 植村 卓史 (東大院新領域) | 久保 孝史 (阪大院理) |
| 高橋 雅英 (阪府大院工) | 辻 勇人 (神奈川大理) | 中田 雅久 (早大理工院) |
| 西林 仁昭 (東大院工) | 林 晃敏 (阪府大院工) | |
| 船津 公人 (東大院工/奈良先端大) | 若宮 淳志 (京大化研) | |

【進歩賞】 8 件

| | | |
|-----------------|--------------|--------------|
| 石田 洋平 (北大院工) | 大洞 光司 (阪大院工) | 窪田 亮 (京大院工) |
| 熊谷 将吾 (東北大院環境) | 坂牛 健 (物材機構) | 田中 隆行 (京大院理) |
| 中村 貴志 (筑波大数理物質) | 原 祐 (北大院理) | |

【女性化学者奨励賞】 2 件

| | |
|---------------|--------------|
| 酒田 陽子 (金沢大理工) | 畑中 美穂 (慶大理工) |
|---------------|--------------|

【化学技術賞】 1 件

大西 由夏、木下 敬文、内藤 高朗、高木 俊輔、高橋 昭彦/花王

【技術進歩賞】 1 件

北畑 雅弘 (東レ)

【化学教育賞】 3 件

| | |
|---------------------------|------------|
| 吉祥 瑞枝 (東理大、サイエンススタジオ・マリー) | 須貝 威 (慶大薬) |
| 丸岡 啓二 (京大院薬) | |

【化学教育有功賞】 3 件

| | | |
|--------------------|----------------|-------------|
| 窪田 篤人 (仙台青陵中等教育学校) | 中山 慎也 (宮城教大教育) | 宮内 卓也 (学芸大) |
|--------------------|----------------|-------------|

【化学技術有功賞】 1 件

中村 永研 (分子研)

【功労賞】

受賞者なし

5. 研究交流部門

1) 研究交流部門会議

令和 2 年度は部門会議の開催は無し。

2) 学術研究活性化委員会

令和 2 年度は会議を 1 回開催し、以下を検討した。

① 第二次先端ウォッチング調査

『第二次先端ウォッチング調査』は、複数の化学関連領域にインパクトを与え、新領域への発展が期待されるテーマについて調査を行っている。今年度は実施無し。

② 中長期テーマシンポジウム

現在の中長期テーマ 6 件とシンポジウム実施状況を確認した。本年度は 5 テーマで中長期テーマシンポジウムを第 101 春季年会にて実施することにした。実施予定の 5 テーマは次の通り、1. 革新的触媒の創製：光や電場などを用いた触媒反応、2. トランス次元材料が織りなす未来、3. 生物間コミュニケーションと物質、4. 人工光合成実現に向けた太陽光エネルギー変換効率向上の戦略、5. 次世代分子システムが拓く未来の化学—協奏的機能運動

③ アジア国際シンポジウム

春季年会の活性化・国際化を目的として、アジア地域の若手研究者を招聘して国際シンポジウムを開催しており、第 100 春季年会では 9 ディビジョン ((①物理化学②光化学③理論化学・情報化学・計算化学④無機化学⑤錯体化学・有機金属化学⑥電気化学⑦ナノテク・材料化学⑧コロイド・界面化学⑨有機結晶) による 7 つのシンポジウムを開催予定であったが春季年会は中止となった。第 101 春季年会では 4 ディビジョンによる 3 つのシンポジウムの開催を予定している。

3) ディビジョン運営委員会

令和 2 年度は会議を 1 回開催。第 101 春季年会でのアジア国際シンポジウム開催ディビジョン等について検討した。また、各ディビジョンの活動状況について確認した。現在約 18,300 名の会員が 21 ディビジョンに登録している。

4) 春季年会実行委員会

① 第 100 春季年会 (2020)

第 100 春季年会 (実行委員長：井手本康・東京理科大学理工学部教授) を 2020 年 3 月 22 日 (日)～25 日 (水) に実施する予定であったが、COVID-19 感染拡大防止のため現地開催を中止した。

② 第 101 春季年会 (2021)

第 101 春季年会 (実行委員長：大月穰・日本大学理工学部教授) は 2021 年 3 月 19 日 (金)～22 日 (月) にオンライン方式で開催する予定。

5) 研究会・新領域研究グループ

① 研究会

「フロンティア生命化学」、「低次元系光機能材料」、「分子アーキテクトニクス」の 3 つの研究会が各種活動を実施した。

②新領域研究グループ

「金属と分子集合」、「ナノスケール分子デバイス」、「分子統計化学」の開拓～溶液とソフトマテリアルとの橋渡し」、「精密物質変換のための分子空間化学」、「サステイナブル・機能レドックス化学」、「液相高エネルギー化学の新展開」、「分散凝集の学理構築への科学と技術戦略」の7つのグループが各種活動を実施した。

6) 国際交流委員会

① 環太平洋国際化学会議 (PACIFICHEM)

COVID-19 感染拡大の影響を受け 2021 年に延期することとなった Pacifichem の開催に向け、2021 年 1 月から講演申込の再受付を開始するなど、ホスト国である日本は、主催 7 か国(日・米・加・中・韓・豪・NZ)と協調して準備を進めている。

これまでに 400 を超えるシンポジウム企画を採択、また昨年までに 13,000 件を超える講演申込を受領しているが、今回の開催延期で学生の卒業などを理由とした講演取下げの依頼も 500 件以上あり、またコロナ禍におけるもう一つの選択肢となったオンラインでの参加や講演を希望する声も少なくなく、12 月にどのような形態で開催するのか慎重に議論を進めている。運営を担う Pacifichem 組織委員会は Zoom ミーティング形式で頻繁に開催しており、2020 年開催を見込んで立案した予算原案をもとにし、参加登録費の設定等の議論を進める。

② Nakanishi Prize ならびに Nakanishi Symposium

当初第 100 春季年会で開催予定であった Nakanishi Symposium は、1 年延期されて 101 春季年会で開催することを予定していたが、年会改革で変更された大会仕様が Nakanishi Symposium に与える影響が大きく希望する形態での開催ができないことがわかったため、慎重に検討を行った結果、本会主催で行う年会とは独立したイベントとして開催することとした。受賞者であるハーバード大 岸義人教授を迎えて受賞記念講演を行うほか、関連研究の講演 4 件を今回初めてオンラインで開催することとなり、必要な準備を事務局が中心となり進めている。

③ 日英シンポジウム

2010 年 7 月に締結された『日英国際協力協定』は 5 年毎に更改され、2020 年の第 100 春季年会で調印式を執り行う予定となっていたが、第 100 春季年会の現地開催が見送られたため保留とされた。署名調印は行えないものの実質的な相互の協調関係を保持することを双方で合意し、国際交流活動の一環として英国王立化学会と共同で化学振興に寄与する試みを今後も積極的に行っていく。

④ 日台シンポジウム

国際活動の一環として、2018 年に台湾化学会 (Chemical Society Located in Taipei; CSLT) と二学会間の交流覚書 (MOU) を締結し、毎年交互に若手研究者を招聘して日台シンポジウムを開催。次世代を担う若手化学者による国際交流活性化と、トップレベルの化学者が深い議論を行うことを目的とするが第 100 春季年会の現地開催が見送られたため 101 春季年会で改めて「Catalyst for Energy Conversion and Storage」をテーマに開催することとなった。なお今回初めてのオンライン開催を予定しており、日台それぞれ 3 名ずつ、計 6 名の若手化学者を講演者として招聘して開催することとなっている。

⑤ CS3 (Chemical Science and Societies Summit)

独、英、中、米、日の化学会および Funding Agency が連携して、喫緊のテーマに絞り、世界の第一線の化学者を集め会合を行なう。2009 年第 1 回ドイツでの開催以降、毎年いずれかの参加国がホストとなり開催していたが、2015 年以降は隔年開催で第 8 回目を 2019 年 11 月 11～13 日に RSC が主催でテーマを「Science to Enable Sustainable Plastics」(参加国：

独、英、中、日)として開催した。次回開催は日本が主催国となる順番であるが、コロナ禍で先の見通しがつきにくい状況であることから、2022年の開催を目指すこととして現在、日本の研究助成団体であるJSTとともに検討を進めている。

⑥ FACS (アジア化学会連合) 関係

FACSは太平洋・アジア地域に根付いた化学コミュニティとして1978年に設立され本会は1981年に加盟、現在の加盟国・地域は31にのぼる。EXCO(役員会)が年2回開催され、また奇数年にはACC(アジア化学会議)が開催される。次回19ACCは2021年9月4日~10日にトルコ・イスタンブールにて開催される予定。

⑦ IUPAC (国際純正・応用化学連合) 関係

IUPACでは2018年から賛助会員(Company Associate)の会費を4年間かけて段階的に大幅に値上げ(\$50→\$1,500)することをIUPAC理事会で決定した。本会では従前より日本円による独自の会費体系を導入しているが、今回の会費改定に関しても漸次移行の独自方針を決定し2020年までにはIUPACの設定する正規会費まで引き上げることとなっており、退会企業が続出し、現在の賛助会員は12となっている。なおIUPACは奇数年に総会を開催しているが2021年はオンライン開催となる見込み。

⑧ PCCP Prize

本会春季年会の3日目に通常開催されていた海外招待講演者等が招かれる表彰式兼懇親会が101春季年会から廃止されることとなり、従前この機会に表彰を行っていたPCCP Prizeに関しても今後、表彰式は執り行わないが継続して受賞者選考および顕彰することを決定した。1月末に開催された選考委員会での検討を経て、今年度の受賞者3名を決定し表彰を行った。

◆竹澤 浩気氏 (東大院 工 応用化学専攻 助教) [錯体化学・有機金属化学ディビジョン推薦]

◆春田 直毅氏 (京大 福井謙一記念研究センター 特定助教) [理論化学・情報化学・計算化学ディビジョン推薦]

◆山内 光陽氏 (関学大 理 助教) [光化学ディビジョン推薦]

⑨ 命名法専門委員会

令和2年度は1回委員会を開催。『有機化学命名法—IUPAC2013 勧告および優先 IUPAC 名—』の正誤表作成について対応を行った。

⑩ 原子量専門委員会

2020年版の「原子量表」を2020年化工誌・化教誌4月号に掲載した。また、2021年度版の「原子量表」を作成した。2021年化工誌・化教誌4月号に掲載予定。

⑪ 単位・記号専門委員会

「化学で使われる量・単位・記号」2020年版を2020年化工誌・化教誌4月号に掲載した。また、2021年版の更新を行った。2021年化工誌・化教誌4月号に掲載予定。

7) 化学遺産委員会

①化学語り部・オーラルヒストリー事業

化学・化学技術の分野で大きな業績を残された諸先達にインタビューを行い、それを映像と音声および冊子体で後世に残すことを目的としている。令和2年度は冊子体を発行しなかった。

②化学・化学技術史に関する一般市民への啓発事業

第14回化学遺産市民公開講座は第100春季年会中止のため実施しなかった。

③「化学遺産認定制度」の実施

第12回化学遺産として以下の3件を認定し、認定証を贈呈する予定。

- 認定化学遺産 第 055 号 日本の石油化学コンビナート発祥時の資料
- 認定化学遺産 第 056 号 苦汁・海水を原料とする臭素製造設備と磁製容器
- 認定化学遺産 第 057 号 再製樟脳蒸留塔

8) 男女共同参画推進委員会

女性化学者奨励賞の候補者の選出を行った。第 21 回男女共同参画シンポジウム“ポストコロナ時代の働き方”を企画し、第 101 春季年会で開催予定。男女共同参画学協会連絡会に委員を派遣して活動を行った。

9) 環境・安全推進委員会

傘下に安全小委員会および環境小委員会を設置し、「化学安全スクーリング」および「環境教育講演会」を実施した。また、日本学術会議主催の「安全工学シンポジウム」、「環境工学連合講演会」に対し、共催学会としての窓口として協力した。

6. 学術情報部門

1) 学術情報部門会議

令和 2 年度は学術情報部門会議の開催は無し。

2) 化工誌編集委員会

例年通り 2 回開催し、企画のアイデアや編集方針の打合せを行った。

①化工誌編集幹事会

委員会開催回数 : 幹事会 6 回。

発行状況 : 総頁数 986 頁 総発行部数 : 258,900 部

「化学と工業」誌の内容の充実を図るべく、幹事会を毎月開催し、各号の企画案およびライター記事について討議した。また、在宅勤務の会員が増えている状況を考慮し 12 月よりオンラインでの期間限定で無料公開を実施した。

②広告小委員会

委員会開催回数 : 2 回

明報社とスプラウトの 2 社体制で「企業情報」、「企業情報」のウェブ版である「ケミカルリクルート」、「大学院入試案内」並びにタイアップ広告企画 Gallery の取り進めを行った。

3) 欧文誌編集委員会

委員会開催回数 : 本委員会 0 回、幹事会 12 回

発行状況 : 論文掲載 184 件、総頁数 1,608 頁、オンラインジャーナル

・中村栄一先生を Guest Editor に迎え、「Frontiers of Molecular Science」をテーマとした Web 特集を実施した。国内外の著名な研究者から約 60 件の Account/Review または Article の寄稿があり、掲載した。2109 年 1 月号よりジャーナルの完全電子化を実施し、リニューアル済の Web サイトにユーザーを誘導して読者の動向解析を行い、さらなるビジビリティ向上策の検討に活かしている。

・また、論文を公開するだけでなく、関連分野の研究者にメールで送付をし、Twitter にて広く論文 PR を行った。さらに、片岡一則先生を Guest Editor として新たな Web 特集テーマ、「Life Chemistry」を立ち上げた。現在までに約 20 件の Account/Review を掲載している。

・Account/Review のみを集めた小冊子「Account Collection」を PDF にて作成をして、広く配布した。

・国際会議や討論会において広告掲載やフライヤー配布を行い、PR を行っている。ジャーナル賞 (BCSJ Award) の提供も行っており、特に若手研究者のエンカレッジをしている。

・Impact Factor (IF) は、4.488 となった。

4) 速報誌編集委員会

委員会開催回数 : 本委員会 0回、幹事会 1回

発行状況 : 論文掲載 320件、総頁数 1,516頁、オンラインジャーナル

・2021年にChemistry Lettersは50周年の節目を迎えるにあたり、国内外の新進気鋭の若手を中心に134件のHighlight Reviewの執筆依頼を行った。すでに50%近くの脱稿があり、Vol. 50 Commemorative Highlight Reviewとして大々的に掲載をしている。2019年1月号よりジャーナルの完全電子化を実施し、リニューアル済のWebサイトにユーザーを誘導して読者の動向解析を行い、さらなるビジビリティ向上策の検討に活かしている。

・CSJ Journal Liaison Office, ShanghaiのリーダーであるHai-Bo Yang先生から中国での新進気鋭の若手を中心にHighlight Reviewの執筆候補の推薦を受け、執筆依頼を行った。中国での著者マーケティングも精力的に行い、投稿全体の約5割を中国が占めていることから、中国に拠点を置いて、著名な先生にリーダーに就任いただき、中国国内でのPRを行っている。中国で著名な研究者のReviewの獲得や中国からの投稿論文の質の向上に取り組んでいる。

・国際会議や討論会において広告掲載やフライヤー配布を行い、PRを行っている。若手研究者に対してジャーナル賞(Chemistry Letters Young Researcher Award)の提供も行っており、若手研究者のエンカレッジをしている。

・Highlight Reviewだけを集めた小冊子「Highlight Review Collection」をPDFにて作成をして、広く配布した。

7. 産学連携部門

1) 産学連携部門会議

令和2年度は産学連携部門会議の開催なし。

2) 産学交流委員会 (委員会開催回数2回)

産学交流委員会では、傘下に4小委員会を設置して産学連携事業を企画・実行するとともに、理事会および運営会議からの付託事項(次年度の産業界選出役員候補者の推薦、化学技術賞等の受賞候補者推薦など)への対応を行った。

① ATP企画小委員会 (委員会開催回数4回)

春季年会における産官学の学術交流および連携強化のための事業の企画・実施、および優秀講演賞(産業)の審査・選考を任務とする小委員会である。この小委員会から春季年会実行委員会傘下の「CIP小委員会」に委員を派遣する形をとって、春季年会CIPの企画・実施を担っている。第100春季年会では、ATPセッション、ATPポスター、ATP交流会を実施予定だったが、中止となった。併せて優秀講演賞(産業)の審査・選考も中止となった。第101春季年会に向け、企画名称・委員会名称の変更を行った(アドバンス・テクノロジー・プログラム(ATP)→イノベーション共創プログラム(CIP))。CIPセッション、CIPポスターを企画して準備を進めており、ポスター申込み32件のうち審査申請された26件から優秀講演賞(産業)の審査・選考を行う予定である。

② 教育企画小委員会 (委員会開催回数2回)

産業界所属の研究者・技術者、および産業界を目指す学生の教育に関わる事業の企画・実施を役割とする委員会で、基礎技術力の向上を目的とする「化学技術基礎講座」を企画・実施している。本年度はコロナの影響により、初めてオンライン(Zoomを使用したライブ配信及び講義動画のオンデマンド配信の併用)で1講座を開講した。次年度は、例年開講している5講座全てオンライン開催にすべく議論を進めている。

| 開催日 | 講座名 | 主査 | 参加者 |
|---------|-------------------------|------|-----|
| 1/18-19 | 高分子化学 –高分子の基礎から応用・加工まで– | 西野 孝 | 36名 |

③ 懇話会企画小委員会（委員会開催回数 2 回）

産学官の学术交流の場としての R&D 懇話会（個人会員 20 名、法人会員 21 社、本年度末時点）の企画・実施を任務とする。会員の研究会・勉強会として、トピックステーマでの講演と交流会から成る「R&D 懇話会定例会」を 6 回、最先端技術を半日で紹介する「技術開発フォーラム」を 1 回、オンラインにて開催した。

| 開催日 | 講座名 | 参加者 |
|-------|---|-----|
| 6/5 | 分子レベルの構造制御に立脚したナノ材料設計と機能 | 17 |
| 9/11 | 量子コンピューティング&デジタルアニーリング | 23 |
| 10/9 | 3D プリンターのものづくりへの活用と今後の可能性 | 22 |
| 12/11 | オープンイノベーションの次なる手法 | 15 |
| 1/22 | 自己修復性材料 | 23 |
| 2/8 | AI を活用した研究開発の現状と展望～超超 PJ における研究事例～ | 43 |
| 2/24 | 第 14 回 技術開発フォーラム:CO ₂ 利用のための触媒技術の動向と展望 | 64 |

④ 人材交流小委員会（委員会開催回数 2 回）

産学の人材交流に関わる事業の企画・実施を担当する。12 月に大学の教員と企業の人事の交流を目的とした「就職交流会」をオンライン(Remo)にて開催した。32 大学、21 企業から合計 74 名の参加があった。また外部組織による化学技術者教育など人材教育に関わる活動へ協力した(JABEE への委員派遣を行った)。尚、例年春季年會中にランチオン形式にて開催している学生会員向け「キャリアパス相談セミナー」、9 月に開催している学生会員向け「企業現場見学」についてはコロナの影響で中止となった。来年度については、引き続き既存イベント(就職交流会)のオンラインでの実施と共に、新規イベントとして、学生会員向けに企業研究者と少人数で対話をする「オンライン座談会(仮称)」を開催する予定。

⑤ 協力委員制度

本会から配信する産学連携関連情報の社内周知を任務とする協力委員は、法人会員 230 社(本年度末時点)から推薦をいただいている。残りの法人会員(約 200 社)に対する推薦要請を引き続き継続していく必要がある。

3) 化学フェスタ実行委員会（委員会開催回数 5 回）

CSJ 化学フェスタは「産学官の交流深耕」と「化学の社会への発信」を趣旨として開催している。第 10 回 CSJ 化学フェスタは 2020 年 10 月 20 日～22 日の 3 日間、東京・江戸川区のタワーホール船堀を運営本部としてオンラインにて開催し、2,953 名が参加した。全国から 986 名からの応募があった「学生ポスター」や新企画を含む喫緊の技術課題について講演、論議する「テーマ企画」をはじめ、産学官の団体・機関が企画する「コラボレーション企画」、「産官学 R&D 紹介企画」など多彩なプログラムが行われ、現地開催と変わらぬ産官学の交流を促進することができた。第 11 回 CSJ 化学フェスタは 10 月 19 日～21 日の開催を予定し、産学官 80 名以上の実行委員会を編成、企画等の準備を進めている。

4) 吉野彰研究助成委員会（委員会開催回数 2 回）

平成 26 年度に発足した本委員会では、毎年異なるテーマを設定して公募を実施している。令和 2 年度の研究テーマは『ゲノム育種、ゲノム編集等のバイオ新技術を駆使した高効率光合成生物の

探索』と決定し、公募を行った結果、1件の応募を得た。候補者1名について「吉野彰研究助成選考小委員会」による厳正な選考・審査と「吉野彰研究助成委員会」での審議を経て、令和2年度の吉野彰研究助成金の交付対象者は「伊福健太郎(京都大学)」とすることを、理事会において承認、決定した。選考結果は『化学と工業3月号』ならびに日本化学会ホームページに掲載。

8. 教育・普及部門

教育・普及部門は学校教育の充実、化学の普及、会誌「化学と教育」の一層の充実を活動の3本柱として、学校教育委員会、普及・交流委員会、化教誌編集委員会、化学グランプリ・オリンピック委員会の4委員会で構成されている。また日本化学会、化学工学会、日本化学工業協会、新化学技術推進協会と共同で10月23日を「化学の日」、10月23日を含む一週間を「化学週間」と制定、化学の理解増進を図る活動に取り組んでいる。

平成29年度に地域における継続的な化学普及活動への取組みにおいて功績が認められる個人を表彰する「化学普及活動功労者表彰」を制定した。令和2年度は、各支部、教育・普及部門から推薦のあった8名を選定した。

1) 学校教育委員会

大学入試問題検討小委員会、グリーン化学実験小委員会、化学用語検討小委員会、化学教育カリキュラム構築小委員会の4委員会で構成されている。

① 大学入試問題検討小委員会

大学入試センターからの依頼により、大学入学共通テスト試験(化学)の検討・評価を行うことを目的としている。

② グリーン化学実験小委員会

環境にやさしく、すぐれた新しい実験の開発・普及をはかることを目的としている。マイクロスケール実験キットを用いて小学生向けおよび教員向けの化学実験教室を開催し、普及活動に取り組んだ。

③ 化学用語検討小委員会

化学用語検討小委員会では高等学校教育現場で問題となっている用語について教科書会社の協力を得ながら抽出し、望ましい用語、用い方について提言することを目的としている。

④ 化学教育カリキュラム構築小委員会

大学教育に繋がる、国際的水準の高等学校カリキュラム案を作成することを目的としている。

2) 普及・交流委員会

化学教育フォーラム企画小委員会、国際関係小委員会、化学だいすきクラブ小委員会、実験体験小委員会、クイズショー小委員会の5委員会で構成され、化学の普及活動を進めている。その他「化学の日・化学週間」など化学の理解を目的にさまざまな社会と連携し、積極的な活動に取り組んでいる。

① 化学教育フォーラム企画小委員会

春季年会で化学教育に関するシンポジウムを開催している。令和3年度は第101春季年会(2021)中の第27回化学教育フォーラムで「観察、実験を位置づけた授業実践ができる指導力を備えた教員の育成」をテーマに開催予定。

② 国際関係小委員会

ICCE2020(7月13日~17日・ケープタウン)が2022年に延期となった。ICCE2020のCCEミーティングも中止となった。

③ 化学だいすきクラブ小委員会

化学だいすきクラブ小委員会では小学生・中学生をメンバーとする「化学だいすきクラブ」(会員約2,000名)向けに、「ニュースレター」を年3回編集・発行した。また化学の理解増進、化学だいすきクラブ会員および読者層を広げるため、夏のイベントを開催しているが、令和2年度はコロナウイルス感染拡大防止の面から体験型イベントは実施しなかった。

④ 実験体験小委員会

保育園や小学校、科学館、公民館、博物館などで出前実験教室を実施することを目的としている。

⑤ クイズショー小委員会

はまぎんこども宇宙科学館において「なぜナニ化学クイズショー」を開催した。

⑥ その他の普及活動：「化学の日」、化学週間

令和2年度は、「君たちの将来と化学の未来－東大で過ごす化学な週末」(10月24日)等、各機関と連携して活動を行った。また、多くの一般の方に「化学の日」に参加していただくことを目的に、2020年版「化学の日缶バッジデザイン」の募集を実施した。最優秀賞を缶バッジデザインとして採用し、「化学の日」「化学週間」関連イベント等で配布した。

3) 化教誌編集委員会

編集幹事会、新・講座小委員会、実験の広場小委員会、投稿小委員会、支部企画小委員会を適時開催し、「化学と教育」誌を年間12号編集・刊行している。各企画のほか最近の話題などを適時掲載するなど誌面の充実を図る一方、教育会員の拡大などによる読者の増加に取り組み、化学教育の質的向上に向けた改革を進めている。また、令和2年より発足した、新・講座小委員会により記事内容の充実を図った。

4) 化学グランプリ・オリンピック委員会

化学グランプリ2020は10月25日にオンラインによる一次選考を実施し、1,640名が参加した。一次選考のなかから成績上位者117名が11月22日のオンラインによる二次選考に進み、大賞5名、金賞15名、銀賞20名、銅賞40名が決定した。

また7月23日～30日にリモートで開催された第52回国際化学オリンピックにおいて日本代表生徒は銀4と全員がメダルを獲得した。今大会には世界の60カ国・地域から235名の生徒が参加した、

第53回国際化学オリンピック日本大会(2021年7月25日～8月2日)には、化学グランプリ2020二次選考進出者から29名を代表候補に選出しており、合宿、選抜試験を経て最終的に4名の日本代表を決定、国際化学オリンピックに派遣する予定である。

9. 支部事業

学術の振興を図る事業として、支部研究発表会、講演会などを、また、化学知識の普及と人材の育成のための事業として、環境安全講習会、中学・高校生のための化学講座、全国高校化学グランプリ、出前授業、化学クラブ研究発表会などを、7支部(北海道、東北、関東、東海、近畿、中国四国、九州)でそれぞれ実施した。

10. 部会事業

コロイドおよび界面化学部会、ケモインフォマティクス部会、生体機能関連化学部会、バイオテクノロジー部会、有機結晶部会の5部会それぞれにおいて、学術の振興を図る事業として、討論会、シンポジウムなどを、また、化学知識の普及と人材の育成のための事業として、ニュースレターの発行、フォーラムの開催などを行った。

11. 化学情報センター

化学会発行図書、共催・協賛の要旨集、国際会議、化学史関連資料の収集・保管を中心に、

化学会編集刊行物の化学会ウェブサイトでのお知らせ、文献複写依頼対応、センター訪問者の対応を行った。

12. 収益事業（事務室賃貸）

現在の入居状況は次表のとおり、一般社団法人情報処理学会、英国王立化学会、公益社団法人有機合成化学協会、一般社団法人触媒学会、特定非営利活動法人国際化学オリンピック日本委員会、一般社団法人日本化学連合、株式会社レプロエンタテインメントに事務室を、株式会社ファミリーマートに店舗及び事務室を貸与しており、事務室賃貸面積 1,399.01 m² が貸与されている。

| 階数 | 入居団体名 () 内はm ² | 備考 |
|----|----------------------------------|----|
| 7階 | 株式会社レプロエンタテインメント (316.2) | 新規 |
| 6階 | 株式会社レプロエンタテインメント (348.4) | 新規 |
| 4階 | 一般社団法人情報処理学会 (349.22) | 継続 |
| 3階 | 公益社団法人有機合成化学協会 (64.60) | 継続 |
| 3階 | 一般社団法人触媒学会 (50.35) | 継続 |
| 3階 | 特定非営利活動法人国際化学オリンピック日本委員会 (34.54) | 継続 |
| 3階 | 英国王立化学会(65.21) | 継続 |
| 3階 | 一般社団法人日本化学連合 (8.73) | 新規 |
| 1階 | 株式会社ファミリーマート (161.76) | 新規 |

II. 会員の状況

| 会員種別 | 2020年 2月末 | 2020年度中 | | | | | | | | 2021年 2月末 | 年度内 増減 |
|-------|--------------|---------|----|-------|-------|----|-------|-------|--------|--------------|-----------|
| | | 入会内訳 | | | 退会内訳 | | | | 変更 | | |
| | | 新入会 | 復帰 | 入会計 | 退会 | 死亡 | 除籍 | 退会計 | 修正 | | |
| 個人正会員 | 17,745 | 193 | 13 | 206 | 1,140 | 88 | 969 | 2,197 | 1,374 | 17,128 | -617 |
| 学生会員 | 5,181 | 1,656 | 4 | 1,660 | 956 | 0 | 94 | 1,050 | -1,473 | 4,318 | -863 |
| 中高生会員 | 72 | 8 | 0 | 8 | 10 | 0 | 1 | 11 | -20 | 49 | -23 |
| 教育会員 | 1,604 | 44 | 0 | 44 | 131 | 1 | 76 | 208 | 118 | 1,558 | -46 |
| 名誉会員 | 77 | 0 | 0 | 0 | 1 | 8 | 0 | 9 | 1 | 69 | -8 |
| 法人正会員 | 427 | 4 | 0 | 4 | 9 | 0 | 0 | 9 | 0 | 422 | -5 |
| 公共会員 | 381 | 4 | 1 | 5 | 29 | 0 | 1 | 30 | 0 | 356 | -25 |
| 賛助会員 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 |
| 合計 | 25,487 | 1,909 | 18 | 1,927 | 2,276 | 97 | 1,141 | 3,514 | 0 | 23,900 | -1,587 |
| 法人人口数 | 3,444 | | | | | | | | | 3,417 | -27 |

III. 役員の状況

[2020年5月25日就任時]

| | | |
|-------|------------------|--------------------------|
| 会 長 | 小林喜光(株三菱ケミカルHD) | |
| 筆頭副会長 | 加藤昌子(北海道大学) | 会務部門長, 学術情報副部門長, 戦略企画委員長 |
| 常務理事 | 澤本光男(中部大学) | 国際交流委員長, 財務担当, 職員人事担当 |
| 副会長 | 織田佳明(住友化学株) | 産学連携副部門長, 化学フェスタ担当 |
| | 酒井一成(DIC株) | 産学連携部門長, 財務担当 |
| | 中村 聡(沼津工業高等専門学校) | 教育・普及部門長, 職員人事担当 |
| | 三浦雅博(大阪大学) | 研究交流部門長, 学術情報部門長, 広報委員長, |
| | 渡利広司(産業技術総合研究所) | 会務副部門長, 研究交流副部門長, 国際交流担当 |
| 理 事 | 安中雅彦(九州大学) | 薩摩 篤(名古屋大学) |
| | 五十嵐仁一(ENEOS 総研株) | 高井和彦(岡山大学) |
| | 石坂昌司(広島大学) | 中井浩巳(早稲田大学) |
| | 市川淳士(筑波大学) | 中嶋 敦(慶應義塾大学) |
| | 及川英秋(北海道大学) | 野崎京子(東京大学) |
| | 岡野知道(ライオン株) | 林 高史(大阪大学) |
| | 小川周一郎(旭化成株) | 林雄二郎(東北大学) |
| | 小柳津研一(早稲田大学) | 原 亨和(東京工業大学) |
| | 北山健司(株ダイセル) | 山内 薫(東京大学理) |
| | 近藤輝幸(京都大学) | |
| 監 事 | 北村二雄(佐賀大学) | 谷口 功((独)国立高等専門学校機構) |
| | 武馬吉則(花王株) | 茶谷直人(大阪大学) |

IV. 重要な契約の締結

特になし

V. 内部統制に関する事項

内部統制に関して、次の規程を整備し、法人運営を行っている。

- (1) 理事・使用人の職務の執行が法令及び定款に適合することを確保するための体制に関する規程
 - ・理事の職務規程：主として代表理事及び業務執行理事の職務に関する規程
 - ・役員報酬規程：役員報酬等の支給基準に関する規程
 - ・積立資産取扱い規程：寄附金を原資として設定する積立遺産の取扱い方法の規程
- (2) 理事の職務の執行に係る情報の保存及び管理に関する体制のための規程
 - ・理事会運営規程：理事会の運営方法並びに代表理事及び業務執行理事等の職務の執行報告を理事及び監事が審議し、結果を議事録として残すこと等を定めた規程
 - ・情報公開規程：情報公開対象の資料の種類、保管及び閲覧等に関する規程
- (3) 損失の危険の管理に関する規程その他の体制のための規程
 - ・リスク管理規程：リスクを防止し損失の最小化を図るためのリスク管理に関する規程
- (4) 理事の職務の執行が効率的に行われることを確保するための体制に関する規程
 - ・決裁規程：理事等の決裁に関する責任の範囲を明確化し、効率的な業務執行を図るための規程
 - ・事務局職制規程：事務局の組織、職位及び指揮命令系統に関する規程
- (5) 監事の監査が実効的に行われることを確保するための体制のための規程
 - ・監事の職務規程：監事の職務に関する規程

以上